

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

チーム ID		チーム名	いんぷレオ
--------	--	------	-------

## ◆チームの紹介◆

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

### チーム紹介

チームメンバー全員が所属している会社のサービスである、

総合品質ソリューションサービス (iMPLEO) (インプレオ) からチーム名を付けました。



### 全体のコンセプト

私たちのチームは、顧客への“説明責任”を果たすテスト設計を目指した。

そのために、「機能」と「テストタイプ」を組み合わせ、顧客に「なに」を「なぜ」テストするのかシンプルに説明できる成果物を作成した。

### チームのテスト設計の強み・アピールポイント

要求仕様書から機能要求と非機能要求を分け、それぞれの機能に対し品質特性と Tiramis の基本構造を構成要素として、テストカテゴリを洗い出した。テストタイプとテストカテゴリを機能と照らし合わせ、テストの必要性を検討することで、目的を絞った無駄のないテスト要求を作成した。

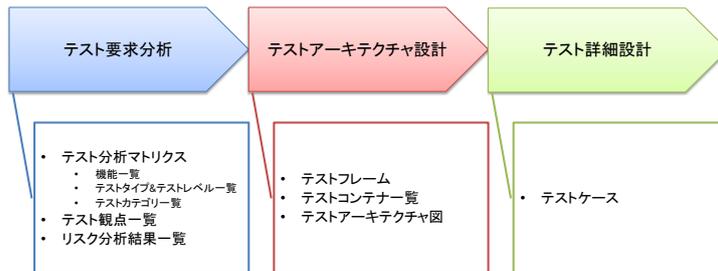
またテスト観点を構造化することで、見通しのよいテストケースを作成することができた。これによりレビュー時に、抜け漏れなどを検出しやすいテストケースの構造を実現している。

## ◆チームの戦略・方針◆

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書(審査対象の成果物など)への参照で記述しても構いません。

## 【プロセスの説明】

チームのテスト設計のプロセス(テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性)の全体像を、モデル(PFD やアクティビティ図など)や文章で示してください



テスト要求分析のフェーズで、「機能一覧」「テストタイプ&テストレベル一覧」「テストカテゴリ」から「テスト分析マトリクス」を作成した。これを基に「テスト観点一覧」を作成し、テストアーキテクチャ設計のフェーズで、それぞれのテスト観点に対して「テストフレーム」を構成した。テストフレームに対し、「網羅基準」を考慮することでテストパラメータを生成し、それらを基にテストケースを作成した。

またテストでは、高リスクな障害が含まれる機能を優先的にテストするために、重大障害の早期発見に適した「テストコンテナ」を作成した。どの機能に重要障害が含まれる可能性が高いか「リスク分析結果一覧」を基に分析し、これらの機能を優先的にテストできるよう「テストアーキテクチャ図」を構成した。

テストベースからテストケースまでのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

下記の採番により、要求仕様書からテストケースまでが紐づけられている。

- ・要求仕様書 (pot-100-10) ⇒ 機能 (01-01)
- ・テストタイプ (KP) + 機能 (01-01) ⇒ テストフレーム (KP-01-01)
- ・テストフレーム (KP-01-01) ⇒ テストケース (KP-01-01-01, KP-01-01-02, …)

## 【テストの構造の説明】

採用したテストアーキテクチャの優位性を記述してください

テストの実施優先順位として、障害が発生した場合に、重大な問題になる可能性が高い機能を最優先でテストし、次にポットの基本的な機能をテストするべきであると考えた。さらに、各機能が十分な性能を満たしているか調査するためのテストを行うこととした。

まず、テストの目的ができる限りお客様に説明しやすいテストコンテナを複数形成し、その中から「重要障害の早期発見」に適しているかを指標とした。また今後の開発にも対応することも考え、「テスト保守性」も判断基準とし、それらの指標を基に、優位性の高いコンテナを用いてアーキテクチャを設計した。

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

3色ボールペンを用い、要求仕様書から「機能」に該当するものを全て洗い出し、それらを機能一覧として整理した。さらに品質特性と Tiramis で使用している基本構造を組み合わせ、それらの機能に対してテストすべき観点の抜け漏れがないよう洗い出した。

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

今回は新商品ということで、商品に障害の傾向などのデータがない(テストチームにもポットに起きやすいバグなどの経験がない)ため、障害が発生しそうな箇所という予測を立てた検出型のテスト設計は行っていない。但し、ポットにおける重要と思われる機能をリスク度合いと発生頻度から算出し、重要度の高い箇所の障害を優先的に検出できるよう、テストケースの実施順を考慮した。

### 【活用した技法や手法の説明】

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義は JSTQB に従います)

同値分割法、境界値分析、状態遷移テスト、ユースケーステスト

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

ゆもつよメソッド